

小林 健前理事長（三菱商事株式会社 取締役相談役） 退任ご挨拶

この度、日本機械輸出組合の理事長を退任いたしました。

2020年5月29日の第150回総会において理事長に選出されて以来2年、理事長職を全うできましたことは、ひとえに組合員の皆様、経済産業省及び関係機関の皆様のご支援、ご鞭撻の賜物と心から感謝申し上げます。



小林前理事長

顧みますと、私が理事長に就任した2020年5月は、新型コロナウイルス感染症により、機械輸出が前年同月比マイナス34%と大きな落ち込みを記録した時期でした。幸いなことに機械輸出はその後回復基調を辿ってきましたが、コロナ禍により様々に行動制限される中、テレワークやWeb会議が一気に普及し、我々の業務環境も大きく変化しつつあります。今後新型コロナウイルス感染症が終息しても、ITを活用した多様な働き方に向けた業務環境の変化が止まることはないと思われま

す。同様に、コロナ禍による社会・経済の混乱とは別に、機械輸出を取巻く事業環境の大きな変化が顕著に現れてきた2年間でもありました。

地球社会の持続可能性確保への取組みがクローズアップされ、機械輸出業界としても、脱炭素化など環境対策、強制労働の禁止等人権保護といった社会的課題に積極的に取り組んでいくことが求められるようになりました。とりわけ脱炭素化について、我が国を含む各国政府が2050年カーボンニュートラルを打ち出していますが、目標達成に向けた取組みは、エネルギー転換や素材・製造プロセスの転換など産業構造を大きく変容させる可能性を含んでいます。また、AIなどデジタル技術の革新により、社会・経済活動の変革（トランスフォーメーション）への可能性が大きく広がるようになりました。

これからは、自由貿易体制の中に環境問題や人権保護に係る社会的課題を如何に取り込み、調和させていくかが問われています。また、脱炭素化などの課題解決には、デジタル技術や新素材開発などイノベーションも重要な要素です。

貿易・産業活動は、このような大きな事業環境の変化と、それに係る課題に直面しておりますが、國分新理事長の新しい体制のもと、組合員の皆様が一致団結して課題を克服し、新たな時代においてグローバル競争に勝ち抜いていただけるよう期待しております。

最後に、組合員の皆様の益々のご活躍とご発展、我が国の機械輸出の拡大を心から祈念し、退任のご挨拶といたします。これまでのご支援、誠に有難うございました。